

遅播き栽培における飼料用トウモロコシ「PI2008(スノーデントおとは)」の栽培特性

「PI2008」は耐倒伏性・収量性に優れ、南方さび病にも強い

背景・目的

- ・県内の飼料用トウモロコシ作付面積は約1,723haで、春夏作面積の約24%を占める重要な飼料作物
- ・飼料自給率の向上に向け、飼料作物優良品種の選定・普及が必要
- ・飼料用トウモロコシについて、耐倒伏性、耐病性、収量性等に優れた品種が必要

成果の内容



提供：農研機構 九州沖縄農業研究センター

「PI2008(スノーデントおとは)」の草姿

「PI2008」の栽培特性(H27~29, 試験地: 県畜産試験場)

「PI2008(スノーデントおとは)」の特徴

「SH9904(スノーデント王夏)」との比較

- ・耐倒伏性に優れる
 - ・乾物収量は、1割程度多い
 - ・南方さび病抵抗性は、抵抗性品種「SH9904」と比較して同程度以上
 - ・暖地の春播きから遅播き、夏播き栽培まで利用できる品種で、RM(相対熟度)*は127
- *RM(相対熟度)とは、播種日から刈取適期に達するまでの期間(日数)の目安

品種名	発芽 良否	初期 生育	穂長	着雌 穂高	倒伏	折損	病害			乾物収量			乾物総重 の対比較
							南方 さび病	ごま葉 枯病	すす 紋病	乾茎 葉重	乾雌 穂重	乾物 総重	
							1~9 甚	1~9 甚	1~9 甚	kg/a	kg/a	kg/a	
PI2008	8.0	7.6	212	67	1.1	0.4	1.1	1.1	1.3	88.8	68.5	157.3	113.9
SH9904(指標)	8.0	7.7	212	95	5.5	1.9	2.0	1.2	1.1	85.5	52.6	138.1	100.0

※試験は遅播き(5月播種)で実施

導入
メリ
ット

耐倒伏性・収量性に優れることから、台風等の気象リスクに対応した自給飼料の安定確保が期待できる



H30台風24号(最大瞬間風速31.6m/s)通過後の「PI2008」

期待される効果

自給飼料の安定確保による乳用牛農家、肉用牛農家の経営安定

鹿児島県農業開発総合センター 畜産試験場 企画環境飼料部 草地飼料研究室

普及対象・範囲
県内の乳用牛農家、肉用牛農家

(独法委託, 民間)